



## 防災訓練に6割の世帯が参加

9月3日、市内全域で防災訓練が開催され、全世帯の約6割にあたる11,387世帯、17,502の方が参加しました。訓練は、地域を主体に一人でも多くの方に参加してもらい、防災意識を高めることを目的に実施。避難の手順を確認する初期訓練を基本に、地域が主体となり企画・実施されました。345人が集まった三郷町野井では、バケツリレーによる消火訓練のほか、三角きんを使った応急処置、消防団による放水訓練が行われました。

バケツリレーによる初期消火訓練（三郷町野井）



## 23人のコーディネーターが誕生

8月26日、27日に南部トレーニングセンター（三郷町野井）で、「災害ボランティアコーディネーター養成講座」（同実行委員会岩井慶次委員長主催）が行われました。このコーディネーターは、災害復旧時に行政と一般ボランティアのパイプ役となり、作業箇所を選定や人員配置などを行うもの。防災マップでの図上訓練やボランティアセンターの開設演習、避難所での宿泊体験を行い、2日間の講座修了者23人に修了証が渡されました。

防災マップを使つての図上訓練

## 五平もちを心待ちに稲刈り

9月6日、上矢作小学校下の学校田で5年生16人が稲刈り作業を行いました。これは毎年、総合的な学習として稲作を取り入れ、田起こしから田植え、田の管理、稲刈り、脱穀の作業を地域の方や保護者に支援・指導してもらいながら行う事業。児童らは約3畝ある田に入り、慣れないかまで手刈りをした後、はざかけを行いました。収穫した米は収穫祭での五平もち作りや学校給食で調理されるほか、上矢作病院や福寿苑へも届けられます。



刈った稲をはざにかけて脱穀の時期を待つ

## 地域で子どもの安全を守る

9月1日、恵那北小学校で「かさぎ町地域安全パトロール隊」の出発式が行われました。笠置町は昨年、中野方町と飯地町と合同で「笠周三町地域安全パトロール隊」を結成しましたが、より安心安全な登下校を地域で守ろうと町振興会林雄彦会長が隊長となり、自治連合会、老人クラブ、PTAら350人で結成。パトロール隊は来年5月頃まで、毎週金曜日の午後4時から6時まで6人が2班に分かれて下校時のパトロールを実施します。



児童会からお礼のこたばを受ける林隊長



## 新鮮な野菜は地元産

9月7日、飯地小学校5・6年生10人が農産物生産者との交流事業を行いました。これは、農産物生産者と交流することで、食への大切さや農業への理解を深めることを目的に行っている事業。この日の生産者は、不動滝やさいの会（池戸ぬい子会長）から3人が、給食の野菜カレーに提供したじゃがいもと玉ねぎの作り方を話し、栄養士らから食糧自給率や地産地消について説明され、地元で作られた野菜が新鮮で安全なことを学びました。

普段食べている農産物について質問に答える児童



## 相撲とジャズで交流

9月2日、明智町千畳敷公園春日野記念相撲場で「どすこい、明智JAZZ NIGHT（ジャズ ナイト）」が開催されました。明智町に合宿している名古屋大学相撲部と地域の有志が一緒になって企画。大学関係のジャズバンドなどが参加し、かがり火の中で、コンサート、相撲の団体戦、ちゃんこの食事など、地域の皆さんと交流しました。相撲部の皆さんが2日間特訓した明智太鼓の競演が行われ、イベントを盛り上げました。

相撲部員と地域の有志で明智太鼓の競演



## 不耕起田から米づくり学習

9月12日、東野小学校でまもろ米教室が開かれ、4～6年生19人が参加しました。これは、えな土地改良区や恵那農業高校などが立ち上げた「まもろ米研究会」が、子どもたちに米と農業への関心を高めようと進めてきた教室。今回は最後の授業として、これまで学んできた不耕起田と普通田について、とれた稲の長さや色、粒の数や重さを測って違いを調べました。また炊いたご飯の味を比較し、不耕起栽培や農業の大切さを学びました。

自分で握ったおにぎりを食べて米の味の違いを実感



## サッカーもサンバで

9月10日、クリスタルパーク恵那スケート場でえな花の木スポーツクラブがサッカー教室を開き、現中京高校・中京学院大学サッカー部コーチのレイナルド先生の指導により、約40人の子どもたちがサッカーを学びました。教室では、サンバの音楽に合わせての準備運動やドリブル、練習試合でサッカーを楽しみました。同クラブは、4月に準備委員会を発足。ウォーキング、カヌーなどいろいろなスポーツ教室を開催しています。

サッカーの基本やコツについて学ぶ子どもら

## 元気でいつまでも

9月13日、敬老の日を前に可知市長は、市内の高齢者宅などを訪れ、長寿のお祝いをしました。養護老人ホーム万年青苑（長島町永田）では、県内最高齢、明治30年（1897）生まれで108歳の近藤すわさんや99歳の白寿を迎えた大導寺さん、牧野さん、度会さんの計4人にお祝いを渡しました。可知市長が「これからも元気で、もっと長生きしてください」と話し掛けると、4人はうなずき花束などを受け取っていました。

花束を受け取る県内最高齢108歳の近藤すわさん



## 岩村にクジラがいた

9月10日、岩村町で美濃岩村歴史掘りおこし研究会が開催され、クジラや貝の化石などを見学し岩村が海だった時代を学びました。瑞浪市化石博物館の奥村好次館長を講師に現地を回り、岩村町一帯の地層のことから、貝殻などの化石の種類と年代、クジラの化石の発見現場と岩村歴史資料館に展示される実物大の化石レプリカ（模型）などを見学。参加者は、化石などを見て、岩村の太古の時代に思いをめぐらせていました。

化石に埋もれている貝殻などの説明を受ける皆さん



## クリスタルカップを懸け熱戦

9月17日、恵那スケート場フットサルコートで第1回クリスタルカップ・フットサル大会が開催されました。当日は成年の部（中学生以上）に、恵那市と中津川市から12チーム150名が出場し、クリスタルカップを懸けて熱戦が繰り広げられました。3ブロックのリーグ戦から上位チームがトーナメント戦を行い、初回大会のクリスタルカップを手にしたのはベレーザ（岩村町）でした。また24日には少年の部（小学生以下）が開催されました。

早いパス回しで抜け、ゴール狙ってシュート！



## 農山村の魅力を再発見

9月10日、中野方町坂折棚田で坂折棚田探検ツアーが開催されました。農山村の持っている魅力やその働きを知ってもらおうと県が催し、多治見市や可児市、名古屋方面から家族連れなど40人が参加しました。棚田のガイドは坂折棚田保存会が行い、水車小屋や石積みなどに触れながら、先人が築いた知恵と文化を体感しました。また北中学校では、不動滝やさいの会の指導のもと、恵那の伝統的な和菓子「からすみ」づくりを体験しました。

全長600mの棚田の絶景を見下ろす参加者たち